

作家名

加藤 修



作家詳細

タイトル

自然木による木組み制作

素材等(ワークショップ開催場所の自然木の枝)

コメント

作品制作では、時間の経過や生命・存在について素材が持つメッセージ性を用いながら制作しています。自制作した鉛のパネルを支持体として描いたり、朽ちた木や廃材を材料に用いて削り出し画面に配置することも多く、「描写」についてもイリュージョンの効果よりも、描くという行為自体に関心を持ち向き合っています。私は伝達すべきメッセージを的確に伝える一つ的手段として「作品」を認識していますので、自制作による作品とともに自作のワークショップ企画も同様の価値に位置付けています。

ワークショップ

学校名

鎌足小学校、一般の方

コメント

ワークショップで制作する木組みは、「人」という漢字のような2次元上の支えあうイメージとしての形ではなく、実際にしっかりと自立することを意識した構造体として制作してもらっています。材料は、ワークショップ参加者の生活圏または関係のある地域に根付く樹木の枝を用いて、参加者が「自身もまた地域に息づく存在であること」を自然に体感できるように設定しています。また日常に人工素材が溢れる時代にあって、自然木の木肌の感触やその重さを実感することも、重要な価値の伝達と考えています。枝のサイズも大きめなのは、小学生が一人では運びづらい状態をわざと作り出し、大きいものを作りたいという動機が生まれた際には協力が欠かせないことを体験する環境としています。作業は木の枝の自然形体をうまく利用しながら、接点をシュロ縄で「結く・結ぶ」という動作を繰り返し、等身大から徐々に大きくしていきます。作品は、材料である自然木の形体の魅力にも支えられ、魅力的なオブジェとして完成しますが、このワークショップでは特に、結果としての「作品」としてだけでなく、その制作過程での思考や掲げた制作上のテーマについて会話することにも、大きな価値があるものと考えています。今回のワークショップでは、大学生をファシリテーターとし、親子での参加も可能としていますので、参加者は多世代との共同制作となり、互いの知恵や力、価値観と新鮮に向き合うこととなります。



木更津みなとぐち
アートプロジェクト



公式HP

ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミンナとアート
みなとぐち

art-kisarazu.jp